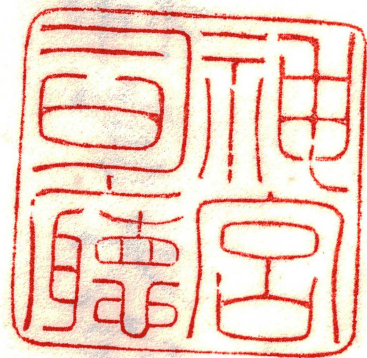


皇大神宮大麻奉祀式

山一志  
田加藤講古堂  
書藤原屋長平  
房製本之記





教部省伺書寫

每年全國頒布致居

神宮大麻奉祀之式不立居付往尋出  
居向有之居間令般奉祀式別紙之通未定  
上木仕夫之相授度御差支也等之哉如何居  
至急御指令可致下居也

明治六年三月十四日

神宮少宮司浦田長民印



宮戸教部大輔殿  
黒田教部少輔殿

書面定式聞届上木差許辱事  
但成刻之上三部上納可致事

明治六年十二月廿七日

教部大  
輔宮戸  
璣之印

皇大神宮大麻奉祀喻解

凡世の人皆事ひくまふことに觸ふきて私情おとやうの動うごりざるを得えず  
而しかして他人未なだ之これを知らざるも天神あまつみに既もに照さし  
覽らんまゝに此これを咎とがめたまふ故ゆゑに常つねに念頭ねんとう小  
發おこる所ところを慎つしみ速すみに罪惡ざいあくを除却およきやくせざる可べうらば  
而しかして其罪そのつみを拂除ふつおよせざるの神具あみぐ之これを大麻おほほろと云ふ  
毎歲まいさい神宮かみぐうより頒賦はんふせざる所則ところすなはち此これなり常つねに此これ大



麻ぬさは向むかひ敬けい拜まいせると記しへ念ねん頭とうの罪ざい穢け消しょう尽じんして  
今こん世せは諸もろの災さい厄やくを除のぞき福ふく壽じゆ延えん長ちやう死し後ごハ永えい遠えん  
天てん上じやうの娛ど樂らくを受うく故ゆゑは毎まい朝ちやう毎まい夕せき拜まい礼らいと遂とげ且かつ  
大たい祭さい祝しゆく日にちは左ひだりの式しきは由よりて典てん祀しをへ

皇大神宮大麻奉祀次第

毎まい年ねん末まつは到いたり新あたら年ねん小こ奉かう祀しをべき大おほ麻ぬさと拜はい戴たい  
セバ本ほん年ねん奉かう祀しセハ所ところの大おほ麻ぬさと氏うぢ神かみの社やしろ頭かみは納おさ

但たゞ一いち年ねん毎ごとに大おほ麻ぬさと氏うぢ神かみの社やしろ頭かみは納おさめど其その儀ぎ  
神かみ棚たなへ奉かう祭まつへ置おく等らうハ戸こ主ぬさのこゝろは任まかせ  
新あら拜はい戴たいたる大おほ麻ぬさと神かみ棚たなは奉かう安あん戸こ主ぬさ禮らい  
服ふくと着き家族かぞへを率ひきお神かみ棚たなの前まへはすゝみ各おのづか着き座ざ

先ま戸こ主ぬさ神かみ饌せんを供くへ  
次つぎ戸こ主ぬさ毎まい日にち神かみ拜まいの詞ことば録ろくと奉かう讀どく訖しりて一いつ同どう拜はい  
禮らい也なり



次神饌と徹あきら直會かみらひと分典ぶんよて一家無異いつけぶちの祝辞あはれ

を演のべ終日あういつくしんじ歡娛きんぐを極きんむべ

本日かんじつ夕刻くに至いたら燈火ともひを獻けんぐべ

○

一月一日以下祭日さいじつ録しも下しもは右の式しきに准あたて之これ

と奉祀かうしを登のぼす

○

毎朝まいハ先あ漱盥そうづて各神棚おみかどの前まへに座ざて毎朝まい神拜じんらい

の詞ことば録しも下しもを稱とへ拍手はくしゅ一拜いつぱいをべ

神饌品目しんけんひんもく

洗米せんまい 酒さけ 水みづ 各一盛おのひきもり

此餘魚鳥海草野菜果物等あまなりうととりあひさうやさいくぐものらを供くぐろは適宜ふさわる

魚いさな

祭日さいじつ



一月一日

四方拜日  
あわうさいのみ

一月三日

元始祭日  
げんしさいのみ

一月三十日

孝明天皇遙拜日  
かうめいてんそうそうさいのみ

二月四日

祈年祭日  
かねんさいのみ

二月十一日

紀元節日  
きげんせつのみ

四月三日

神武天皇遙拜日  
かむむじんそうそうさいのみ

六月三十日

大祓日  
おほすけのみ

九月十七日

神嘗祭日  
かみかへさいのみ

十一月三日

天長節日  
てんちやうせつのみ

十一月廿三日

新嘗祭日  
あたらしくさいのみ

十二月三十一日

大祓日  
おほすけのみ

此餘誕生創業婚姻奏功等凡て祝々べ記をわる  
このあふさんじやうさうがみこんそうこうとうたてしゆくべきをわる

の日は必々先づ祭式を行ふて後事と就くべし  
ひはかならずまづさいしきをなふてのちのことにしゆくべし

其事の悉くさい五儀略式年中神拜略記等と就  
そのことくさいごぎりやくしきねんぢうかんらいりやくきとうつき



て見るへく

[Faint, mostly illegible text in the right-hand column, likely bleed-through from the reverse side.]

祭日神拜詞

掛けまくも かゝこも 天照皇大神宮乃大麻乎齋 あまてらすあをのねさといつ  
 掛毛万久恐支 さしまるゐのうびゆ 天照皇大神宮乃大麻乎齋 あまてらすあをのねさといつ  
 支祭留此神床尔慎美敬比仕奉互畏美 さしまるゐのうびゆまはしくあやまひつくまつてかゝこも  
 畏美白久過知犯留世許々多久乃罪乎水 おしろくまをさくわやまちとせらるこゝたくのつみ  
 乃淡乃早瀬乃浪尔消失留更乃如久淡 のあそめさわせめあきよきえうはるこゝめとく  
 雪乃春日乃影尔消失留更乃如久消失 ゆきのはるひのわけよきえうはるこゝめとく



比ひ賜たまひて比ひ皇すめ大御神たみ乃の貴うつ乃の御孫みま止と大座おほま須すめ

天皇尊すめみこと乃の所知あろ食め須け改こ更ま波は天地あめつち乃の共平ともなひ

尔み顯見あら蒼生き乃の生あり留日ひ乃の職業あり波は弥益い尔み

弥廣いやひろ尔み退まろ留る後のち乃の快樂たぬ波は永久ひい尔み無窮よき久ま

守利まもり賜たまひ比さつ授氣け賜たまふ布ふ大御德たみ乎い尊う備と喜び備が

供進たてまつる留る御酒みさ御供しけ乎を平たひ久く安やす久う所聞きこ食め止せ

畏か美こ畏そ毛め白も須まを

毎日神拜詞

掛かけ毛ま万ま久く綾あや尔る恐こ支さ天照座皇あまてし大御神たみ過あ知ち

犯世と留諸と乃の眾穢は乎を祓は比ひ給たま比ひ清きよ女め給たま止いと恐こ

美み恐こ毛も白は須まを